

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

### 第13回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(以下、「ボラサポ」と略)の第13次の助成先を決める配分委員会(第15回)を開催しました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「(第1回から第12回までの)助成決定に当たって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

#### 1. 第13次の応募状況と助成決定状況

##### (1) 応募状況

1月10日から1月24日を受付期間とした第13次募集では、1か月未満の「短期活動」に40件・1,722万円、1か月以上の「中長期活動」に、109件・2億8,317万円、1,000万円を上限としたもう一つの「中長期活動」に2件・1,981万円の応募がありました(合計:151件・3億2,020万円)。

応募件数は、第11次から比較して半分以下となった第12次のほぼ横ばいとなりました。特に被災3県の間接支援組織に応募についての周知に協力いただきましたが、応募件数の回復には至りませんでした。この状況を踏まえ、運営委員会、配分委員会で協議した結果、2.(1)に述べるような対策を行うことにしました。

##### (2) 全般的な傾向

第13次応募の活動では、次のような傾向が見られました。

- ①短期活動の応募からは、今もボランティアバスで被災地に向かい、活動している団体が複数あることがわかります。ただし、当初のような「がれき撤去」という力仕事から、「住民との交流会、マッサージ活動」「子どもたちへの学習支援」など交流を基本にしたさまざまな内容へと、活動が展開されています。前回に引き続きボラサポの助成を受けたことのある団体への継続した助成が多くなっていますが、これは同じ場所への継続的な関わりによる活動が多いためだと考えられます。
- ②中長期活動の応募からは、「自立」「なりわい」「就労」「人材育成」「運営相談」などのキーワードが複数見られました。被災地外の団体が地元の人たちと一緒にしくみをつくろうとしている活動、地元の人たち自身が始めている活動、いずれもありましたが、どちらも今目の前のことに対処しようとするのではなく、今後の暮らしを支えていくことを見据えて活動に取り組んでいるように応募書から読み取れました。震災から3年を過ぎた今、こうした活動が必要とされていることがわかりました。

### (3)今回、検討を行った助成の考え方について

#### [第13次の審査について]

##### ①広域避難者の移住や定住を目的とした活動について

こうした活動についての考え方は、「第11回助成決定に当たって」で整理をしたところです。今回もこの内容の応募がありましたので、以下のように再度整理を行います。

#### 【助成対象とする活動】

- 避難者のニーズや意向(移住・定住、帰還)に沿った支援活動であり、複数の選択肢が提示できること
  - 提示できる情報・支援の主目的がいずれか片方(移住・定住もしくは帰還)に偏っていないこと
- 上記を満たした上で行う、下記の活動を対象とします。下記に当てはまっても、上記を満たさない場合は助成対象としません。
- ・ 移住・定住を行うかどうかの判断の材料となる情報を提供する活動
  - ・ 移住・定住をするかどうかの判断のために、移住先の生活環境等を確認するための保養プログラム
  - ・ 避難している人たちが当面の移住・定住を希望した場合に、就労や住居等に関して相談にのる活動
  - ・ 移住・定住を当面決めた人たちに対して、その人たちがコミュニティに溶け込めるように支援する活動
  - ・ 当面の間移住・定住した当事者の人たちに対するネットワークづくり、絆づくりなどを支援する活動
  - ・ 当面の間移住・定住した当事者の人たちによるコミュニティネットワークづくり、絆づくり、コミュニティに溶け込むことなどを目的とした自主的な活動(この活動のみは上記を満たさなくても助成対象とします)

## 2. 第14次以降のボラサポのしくみについて

### (1)応募しやすいしくみとするために

第12次から応募件数が大きく減少し、第13次でも増加が見られなかったことから、運営委員・配分委員会で協議しました。その結果、以下のような取り組みを行うこととします。

#### ① 中間支援組織からの応募の周知を再度依頼します

第12次においても実施したところですが、ボラサポの応募情報について、活動する団体にとってより身近なところから周知いただくように努めます。

#### ② 他の助成団体等と連携し、合同説明会を開催します

活動を行っていても、助成の存在を知らなかったり、自分たちが対象団体に当てはまると思わないことなどから応募経験のない団体がまだ数多くあると考えられます。そこで、他の助成団体とも連携し、特に被災3県において助成に関する説明会を開催し、改めての周知と不明点に答えられる機会を作ることとします。

#### ③ 同一活動の継続応募等について、一部要件を緩和します

これまで、応募要項P.7の※3の条件に当てはまるような複数の応募を同時に行う場合には、応募開始前までに活動報告を終えている必要がありました。しかし、この要件を満たさずに要件不備になる団体が毎回数件あることから、活動報告を終える時期を「応募開始前」から「助成決定前」に変更します。これにより、これまでよりもおおむね3ヶ月ほど活動報告をするまでの猶予ができることとなります。詳しくは新しい応募要項をご確認ください。

### 3. 終わりに

震災から3年が過ぎました。生活していて、「東日本大震災」という言葉を耳にしない日も多くなってきています。一方、被災地では復興の道のりがまだ遠く、広域に避難している人たちにとっては特に先がいつ見えるのかもわからないという状況が続いています。ボラサポに応募している団体はそうした状況を把握し、解決のために日々活動をしているのだと感じています。

ボラサポはあと3回の助成を残しています。今回の傾向にもありましたが、残りの3回では、ボラサポが大切にきてきている被災地・被災者により草の根の活動を応援する姿勢に立ちながら、今まで以上に「この先」につながっていく活動を応援していきたいと考えています。例えば、支援者を支援するような活動や、ネットワークをつなげたり定着化を促したりするなどの点で、専門的なスキルを持った人を育てる活動などです。また、日本の社会全体での「この先」を考え、若い世代とともに、課題解決の方法を探るような活動も応援したいと考えています。団体のみなさんには、ぜひこうした「この先」を意識して、応募を検討いただきたいと思います。

以 上

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」  
配分委員会 委員長 山崎美貴子